

令和 6 年度 江南区男女共同参画地域推進員企画事業 座談会

## 様々な世代が携わり、 誰もが活躍できる地域づくり



座談会の内容をまとめた記事は、  
江南区だより令和 7 年 3 月 16 日号で掲載しています。

### 開催概要

○日 時:令和 7 年 3 月 5 日(水) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分

○会 場:江南区役所 201 会議室

<参加者>

田村 智江さん(江南区男女共同参画地域推進員)

土田 進也さん(江南区男女共同参画地域推進員)

今井 麻奈美さん(江南区男女共同参画地域推進員)

指田 祐美さん(男女共同参画アドバイザー、NPO 扉 代表)

## 1 教育の場で広がる男女共同参画

司会 令和5年度には、子育てにおけるアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について、大学生2名を呼んでパネルディスカッションをしました。ランドセルの色や進路選択など、以前よりもこどもの選択肢が広がってきているということが分かりました。



令和5年度に実施したパネルディスカッションの様子。日常的にメイクをする男性が増えていることや、ランドセルの色の選択肢が増えていること、女子制服でもパンツスタイルが選べるようになってきたことなど、性別によらず、選択肢が広がってきていることを2人の大学生から話してもらい、こどもの選択を尊重する大切さについて考えました。

土田 この前、中学校の卒業式に行ってきたところ、パンツスタイルの女子が結構な割合でいたのが印象的でした。

司会 スカートとパンツ、選べるようになってきているんですね。

土田 うちの近くの中学校ではそうですね。卒業生全員がしっかりしているけれど、特に女子がしっかりしていて、すごいなあと思いました。生徒会長や応援団長は女性が務めていましたよ。

田村 そういう世代なんですね。

土田 答辞も女子がしていて、内容も立派で感心しました。2年生からの送辞も女子。中学校くらいの年齢だと、女子の方が立派なのかなあと感じるくらいでした。

今井 私がPTA会長をしている中学校でも、昨日が卒業式でした。答辞も送辞も女子で、PTA会長は私なので女性。一方で、校長先生や来賓の方は男性でした。

土田 うちも来賓は男性でした。

今井 今は、名簿も男女混合だから、私たちのときとはクラスの雰囲気が違うなあという印象です。リーダーシップを発揮して、進行を仕切ったりしているのも女子であることが多く感じます。ハキハキしている子が多い印象ですね。

司会 若者には、男女共同参画の考えが浸透しているということでしょうか。

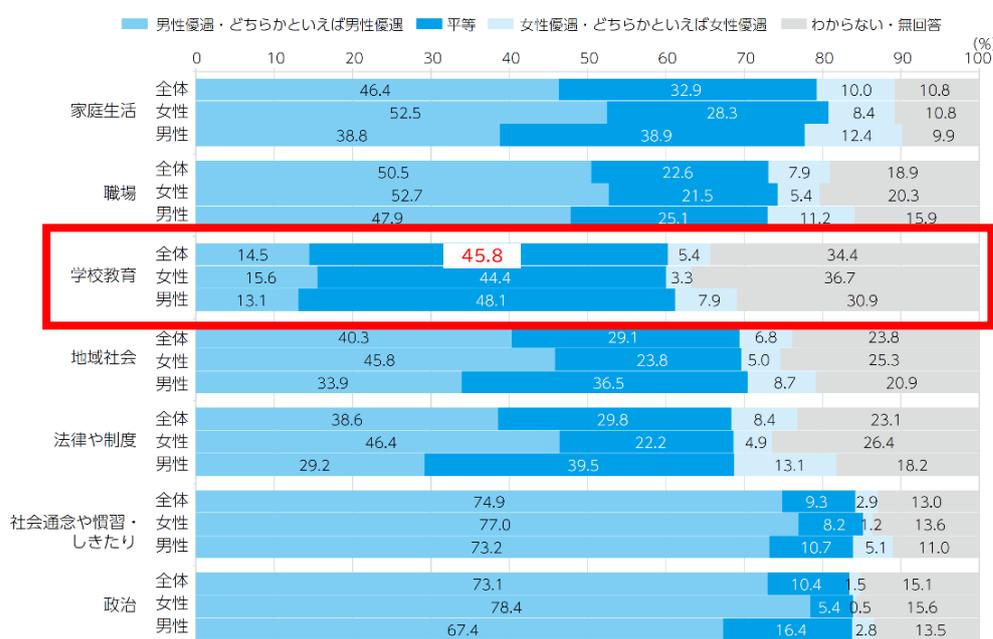
今井 「女の子はこう」「男の子はこう」というのは大分なくなってきている感覚です。

田村 男女混合名簿は、私も構成員だった新潟市の男女共同参画会議で、20年以上前にはじまったものだったと記憶しています。加えて、男女関係なく「○○さん」と呼ぶことを、全市に浸透させようと動いていましたよ。

今井 男女混合名簿も、「さん」付けも、今では当たり前ですね。

司会 男女の区別をなくすという意識が広まっているということですね。

学校教育、家庭生活、法律や制度等の各場面における、男女の地位の平等感



資料：新潟市「男女共同参画に関する基礎調査」(令和元年)

男女の地位の平等感は、「学校教育」が45.8%と、他の項目よりも高くなっています。

司会 一方で、社会に出ると、色々な世代の大人がいて、上の世代の感覚に引っ張られてしまう可能性もありますね。

田村 特に上の世代には「男性で役職を固めたい」という気持ちがある人も、残念ながらいると思います。

今井 今の若い子たちは、男女の仲がすごくいいですね。私たちのときは、男子と仲の良い女子は嫌われることもありました。でも、今は違います。びっくりするくらい自然に、友情が育まれています。実際、今の時期は修学旅行が間近なので、計画を立てるためにグループになって話し合うこともありますが、男女の仲がフラットで、話し合いの雰囲気がとても良いと感じます。これには、名簿や呼び方などの、今まで男女で分かれていたことが、分かれなく

なったことも、少なからず影響していると思います。

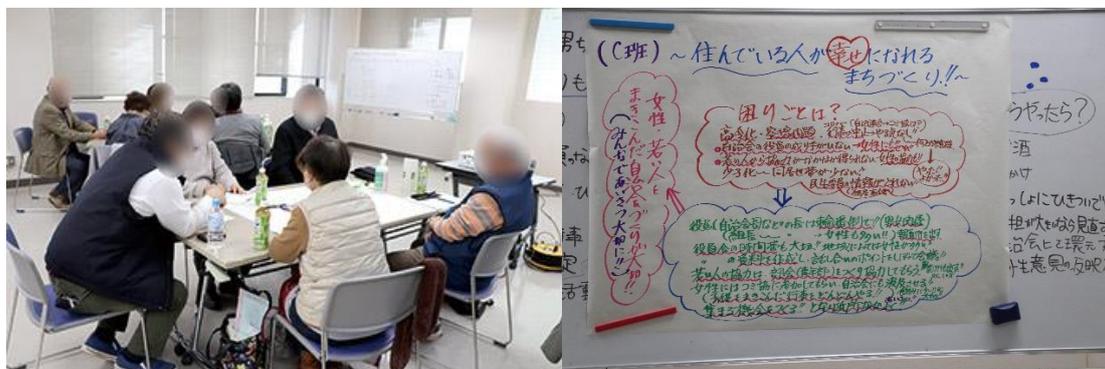
田村 昔は、生徒会役員みんなが男子、なんてこともありました。私も生徒会長に立候補しようとしたが、「副会長になりなよ」と友人に止められてしまいました。そのときからずっと違和感はありましたが、「そういう時代だ」と受け入れていました。

指田 クラスでも、「学級委員長は男子、補佐役は女子」という役割分担の意識がありました。

土田 今は、生徒会の三役がみんな女性、という学校もあります。逆に男子がしっかりしてほしいくらいですね。

## 2 テクノロジーを活用して、誰もが参加しやすい会議運営を

田村 上の世代に目を向けると、自治会長・町内会長は男性が多いです。令和4年度に実施したワークショップでは、女性の参加者は少なかったです。



令和4年度に実施したワークショップの様子。「今よりもっと！住んでいる人が幸せになれるまちづくり」をテーマに、自治会・町内会やコミュニティ協議会などの団体に所属する方が参加し、女性や若い人を巻き込んだ地域づくりをすることで、担い手不足や役員の高齢化、孤独死といった地域の問題解決を図ることについて考えました。

土田 自治会長・町内会長だと、そもそもやり手がないという問題もあります。

今井 前に立って意見を言うことについて、苦手意識を持っている方も多いのかもしれない。

土田 以前、テレビで高校生が団地の役員になったという話も聞きました。地域でも、若い子を取り入れて会議すれば良いのに、と思います。

田村 年齢問わず参加できると良いですね。

土田 高校生が参加したとなると、話題性があって、周りの地域にも波及していくかもしれないです。

田村 同感です。

今井 男性が仕事をして女性が家事をする、という従来の文化の中では、地域の集まりの時間は夜が基本でした。これまで男性主体でやっていたことですから、昼間に仕事をしている方が参加しやすい仕組みになっていると感じます。女性が入ることや、仕事や家事をする男性がより参加しやすいよう、時間の見直しが必要になってくると思います。

指田 zoom でやったりするのもいいですね。

田村 一方で、zoom 会議は周りの空気感が分からないから、実際に会って話したいときもあります。

今井 内容によって使い分ければいいですね。実際に膝を突き合わせて話したいときは対面で、ライトな連絡はメッセージアプリでも十分だと思います。

指田 私は海外の人と会議する機会がありますが、場所関係なくインターネットでつながれるのが便利だと感じます。話した内容も、ものの10秒くらいで通訳されて画面に表示されます。Z世代の人たちは、特にデジタルに慣れているので、時間も場所の壁も難なく乗り越えていくのだろうなと思います。テクノロジーによって、時間やジェンダーの壁が壊されていく。今の若い子たちは、ゲームとかしませんか？相手がだれか、男女かもわからないけれど、世界中の人とつながって遊んでいます。ジェンダー、年齢、国籍など、全く関係なく遊んでいるというのが、昭和世代の私からすると、「そうなんだ！」と新鮮な感じですよ。

今井 私のこども宛てに、北海道在住の大人から手紙が届いたことがあります。知らない人に住所を教えるのはいかなものかと思いますが、好きなものや共通点があれば、誰でも仲良くなれるというのはとても良いことですね。私が学生の時は、「デジタルは男子が得意」といった固定観念がありました。商業系の高校に通っていたので、情報系の授業では、男子の人数が圧倒的に多かったです。

### 3 こどもの意見を取り入れた会議運営

土田 中学校の学校運営委員会などで良く言うことなのですが、こどものために何かしようと考えている会議は、特にこどもを参加させてほしいなどと思います。主役のこどもが入ってないことに、違和感を抱いてしまいます。

今井 「若者が輝くまちづくり」と言う割には、こどもの声を聞く機会が少ないですよ。

土田 実際、こどもの意見を聞いてみると、大人よりも立派な考えだなあと驚くことがあります。「地域に貢献するために〇〇したい」など。正直、私がこどものときはそんなこと考えたこともありませんでした。「こどもだから」という理由で突っぱねるのではなくて、一人の地域住民として、考えを聞いてもいいのではないのでしょうか。今日のような座談会でも、若い子が男女共同参画をどのように捉えているか聞いてみてもよかったのかなと思います。

指田 令和3年度に横越中学校で実施した授業では、「自分らしさ」について考えて、発表しました。それを聞いている親も、「ああ、うちの子ってこんな風に思ってるんだな」という反応を示していて、興味深かったです。親世代からすれば、医療系なら「女の子は看護師」「男の子は医者」といった職業の固定観念があったと思います。反して、今のこどもたちは、すごく自由に考えていると思います。娘の中学では、「社会をどうするか」というテーマで、大人さながらにプレゼンをしています。昨年度参加してくれた大学生2人も、やはりしっかりと個を持っていて、将来に目を向けながら進路選択をしています。本当にうらやましいです。



令和3年度に横越小学校で実施した授業の様子。「ジェンダーを知って『自分らしく生きる』」をテーマに、職業をジェンダーの観点で考え、「私これが好き」という気持ちを持つ大切さについて学びました。

司会 令和5年度のパネルディスカッションに参加した男子大学生が、普段からメイクをしていると言ったことが衝撃的でした。福祉系の大学に進んでいることについても、親は賛成してくれたとのことで、そういった若者の選択を親が受け入れることで、親世代にも自由に選択する考え方が波及していくのかなと思います。

今井 「今はそういう時代だもんね」「受け入れないといけないんだよね」と言って、大人もこれまでの当たり前を当たり前と思わず、一生懸命受け入れようとしています。私の就職先はガソリンスタンドで、もちろん男性スタッフがメインでした。私はやりたかった車の整備をしていましたが、「女は接客」という雰囲気がありました。

指田 昔はお茶くみを女性がしていましたが、当時、男性に理由を聞いたら、「女性が入れた方がおいしいから」と。「何を根拠に？」と怒りを覚えました。こういうようなつらさを抱えてきた私は、今のこどもたちをうらやましいなと感じます。大人も、こどもに固定観念を押し付けると嫌われるということを実感していると感じていて、メディアの影響もあるのではないのでしょうか。

今井 LGBTQの方々を異質扱いするようなことも、なくなってきましたよね。メディアによって、そういう人が身近にいるということを知っているだけで、親も心構えができると思います。私の友だちの話ですが、息子さんが男の子が好きかもしれない、ということなんとなく感じていたら、あるときそれを話してくれたそうです。「身近な人もそうかもしれない」という状態であることで、心構えができて、なんとなく受け止めることができます。私は、以前息子に、「いつか彼女ができるのかな」となんの気なしに言ってしまい、そんな自分にとってもショックを受けました。自分の発した言葉が適切なのか、考えていくと良いと思います。

土田 男女意識しないで仲良くする、そんな関係になっていくことで、共同に近づいていくのかなと思います。

今井 男女共同参画という言葉自体、古くなっているのかもしれませんが、男と女というくりだけではなく、自分が自分らしく生きられることが大切ですよね。

土田 人間として仲良くなっていく、それが男女共同参画の目指すところなのではないのでしょうか。

#### 4 地域で見守る子育て

田村 新潟市の小中学校で、男女平等教育パンフレットを活用した授業を行っている学校は100%です。だから、今の若い子たちについては私は何も心配していません。

男女平等教育パンフレットを活用した授業割合

	21年度 (2009)	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
小学校3年生	93.9%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
小学校6年生	95.6%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
中学校2年生	77.2%	84.2%	83.9%	100.0%	96.4%	100.0%	100.0%

(第4次 新潟市男女共同参画行動計画)

田村 私は、むしろ大人が心配です。日本のジェンダーギャップ指数はとても低いです。

#### コラム ジェンダー・ギャップ指数

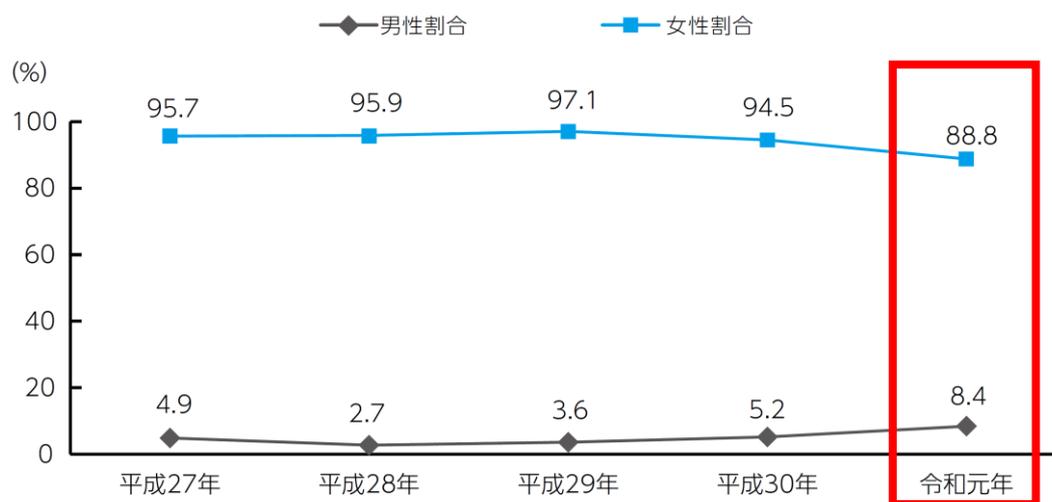
ジェンダー・ギャップ指数(GGI: Gender Gap Index)は、世界経済フォーラム(WEF: World Economic Forum)が毎年公表している各国における男女格差を測る指標です。経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。

2019年12月に公表された「Global Gender Gap Report 2020」では、2020年の日本の総合スコアは0.652、順位は153か国中121位(前回は149か国中110位)でした。分野別では、経済のスコアが0.598で115位、政治のスコアが0.049で144位、教育のスコアが0.983で91位、健康のスコアが0.979で40位でした。

土田 ジェンダーだけではなくて、年齢や学歴で差別することもありますよね。

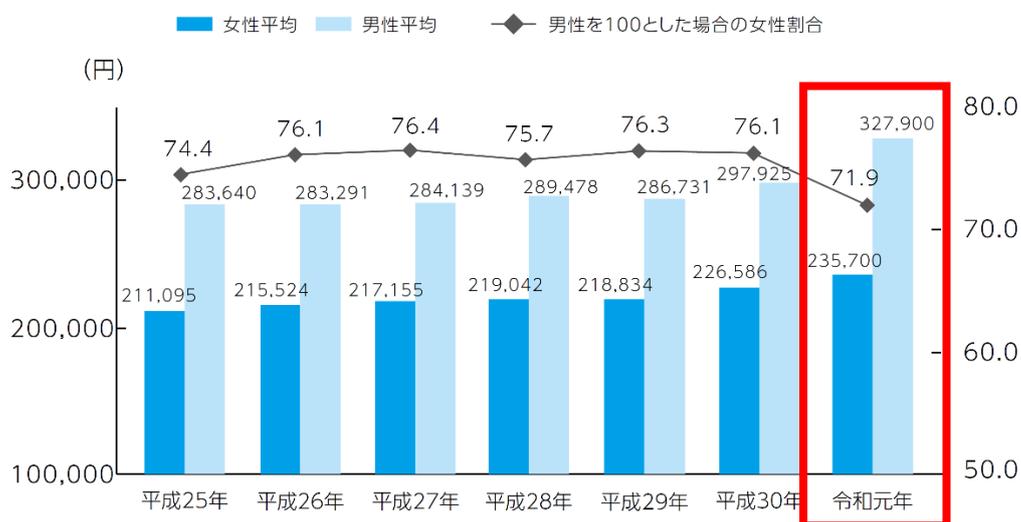
田村 男性の育児休業取得率は、令和元年で8.4%となっています。賃金格差は71.9%。賃金格差が大きい割に、共働き率は新潟市が政令指定都市の中で全国1位なんです。

育児休業取得率



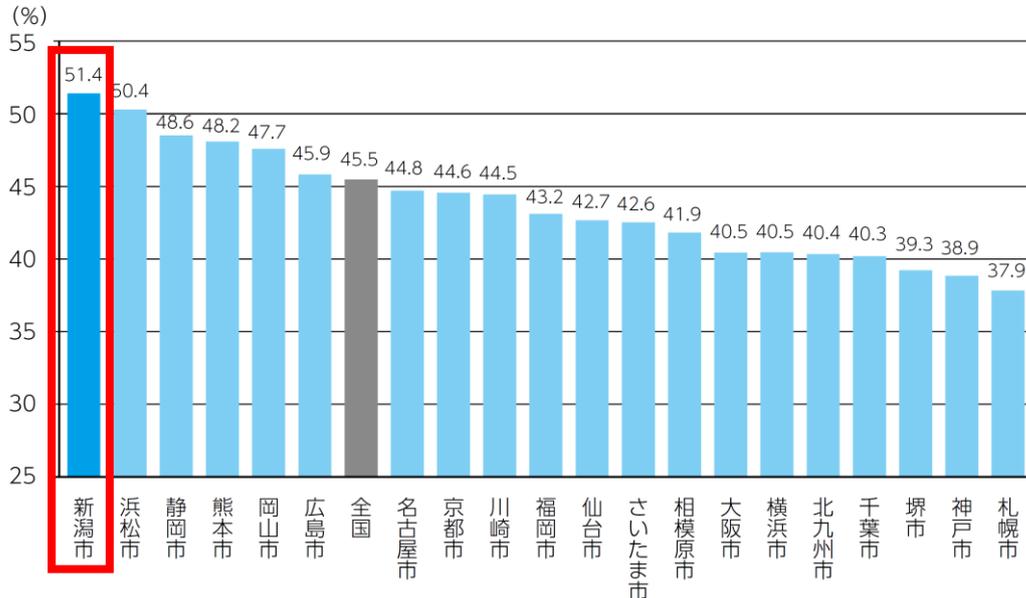
資料：新潟市「賃金労働時間等実態調査」

新潟市所定内賃金の男女格差



資料：新潟市「賃金労働時間等実態調査」(平成25～30年)  
新潟市「厚生労働省 賃金構造基本統計調査 新潟市の概況」(令和元年)

### 共働き率の政令市比較



資料：総務省「国勢調査」（平成 27 年）

土田 このような状況下で、今の若い子は、どんどん首都圏に流れているのではないかと思います。

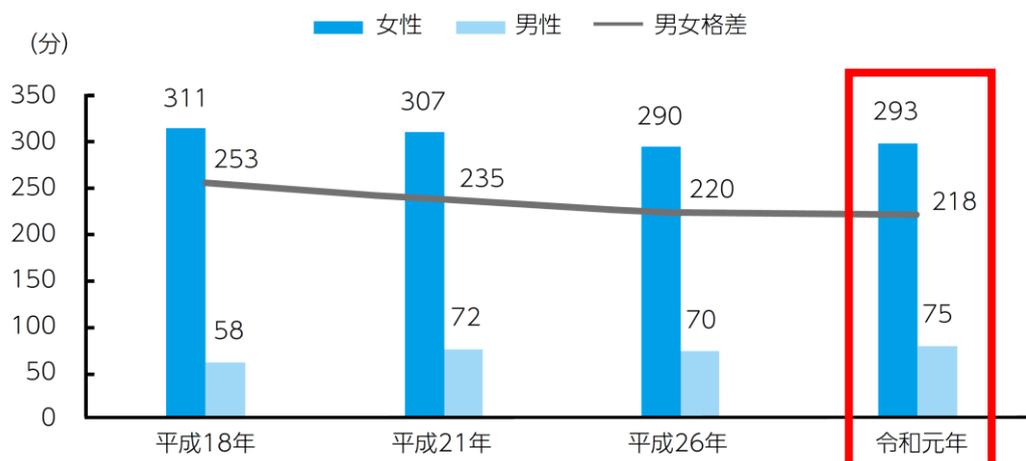
指田 新潟の場合は、働きたくて働いているのではなく、働かざるを得なくて働いている方もいるように感じます。夫の給料が高ければ、妻も専業主婦をするかもしれないけれど、家のローンや家賃など、二人で働かないと経済的に厳しいのが、地方都市の宿命ですね。

土田 若者の車離れもよく耳にしますが、お金がなくて車を購入できない人もいるのではないかと思います。

今井 生んだ後、実際に育てる段階になったときに、また働き始められるかを考えているのは母親側であることが多いように感じます。不登校児の親は、仕事を続けるのが難しくてやめることも。保育園の送迎や、その他にも突発的な事態に対応するのは、やはり女性であることがほとんどだと感じます。そんな中で、私の知り合いは、保育園で何かあった場合の第一連絡先を父親側に設定しています。そうすることで、夫婦間での情報共有がスムーズに図られ、「お迎えはどうする？」といった話し合いに発展させられます。しかし、やはり多くの家族は、買い物やごはんはいつやれば？とか、母親が一生懸命情報収集しています。もちろん父親とも話しているだろうけど。

土田 お金を稼ぐために働かないと、という状況なのであれば、子育てしながら働くのはかなり難しいですね。

共働き夫婦の家事・育児・介護平均時間の格差



資料：新潟市「男女共同参画に関する基礎調査」

司会 千葉市は、男性の育児休業取得率が少しの工夫でかなり高い割合(92.2%)になったようです。(出典:千葉市「千葉市職員の子育て支援計画(第4期特定事業主行動計画)令和2年度実施状況報告」令和3年11月)「申請したら育休」という制度を、「申請しなかったら育休」という風に変えたそうです。

土田 確かに、申請という一手間二手間がハードルになることもありますよね。パスワード入れるだけでも面倒なんだから。そういう風に、制度から見直しをするもの大切ですね。

指田 土田さんは、今の女性の働き方を自分がやるとしたらどうでしょうか。

土田 俺はこどもが好きだからいいけど、365日×何年となったら、どうか分かりません。

今井 私たちくらいのと違って、親から夫を育てなさいと言われた。それでは駄目ですね。

土田 女性はお腹の中に10カ月前後赤ちゃんがいるけど、男性はいきなり赤ちゃんが登場したことになってしまうので、だからこそ、生まれる前から意識づくりをしないとイケないですね。

今井 産後数カ月は、夫婦がこどもへの愛着をはぐくむ時間です。男性の育児休業も、赤ちゃんへの愛着をつくるために、生物学的にとっても有意義な期間でもあります。女性はしっかり体を休める期間。男性が担った方がいいこともあるのに、なかなか理解は進まないですね。

司会 育児休業を取るか取らないかの話だけではなく、取った後に何をすることが大切ですね。

土田 昔は黙っていても育つ雰囲気がありました。今は構いすぎているかなと思ってしまうところもあって、子育てがもっと大変になってきていると思います。

今井 大人の見守る目がたくさんある中で子どもを育てることが、昔は当たり前でしたね。

土田 近所の人が叱ったり。家庭だけではなく、周りの人と育てていくことが大切ですね。

今井 江南区では「見守る目、見守る心」という事業を実施しています。「自分は応援しているから、声をかけてもらえればいつでも助けるよ」という意思表示を子育て応援団バッジでできるようにしています。今は、助ける方にも勇気が必要ですからね。



子育て応援団バッジ

指田 おせっかいくらいがちょうどいいかもしれませんね。

土田 昔よくいた、お見合い相手を紹介するおばさんみたいな、ああいう人たちが増えたら、地域は幸せになる気がします。今はおせっかいな人を邪魔という人も多いですけれど。

指田 子育てが大変でも、近くにいる大人が「何カ月ですか？」などと言ってくれるだけで、心が楽になりますよね。

今井 最近は SNS やニュースで、子どもの連れ去りなどの情報がたくさん流れてきます。「子どもを一人でトイレに行かせたら絶対に駄目」など、社会に対する親の信頼感が薄まっているということ強く感じます。子どもを預けることにも抵抗感がある方もいらっしゃいます。

土田 バッジを活用して、家族で抱え込まない地域にしていけたらいいですね。

田村 自治会ごとに見守りを。

土田 小さい単位がいいですね。

今井 私の住んでいる自治会では、今でも地域の運動会をしています。

指田 防災訓練もいいですね。

土田 色々な世代が交流できるようになればいいですね。

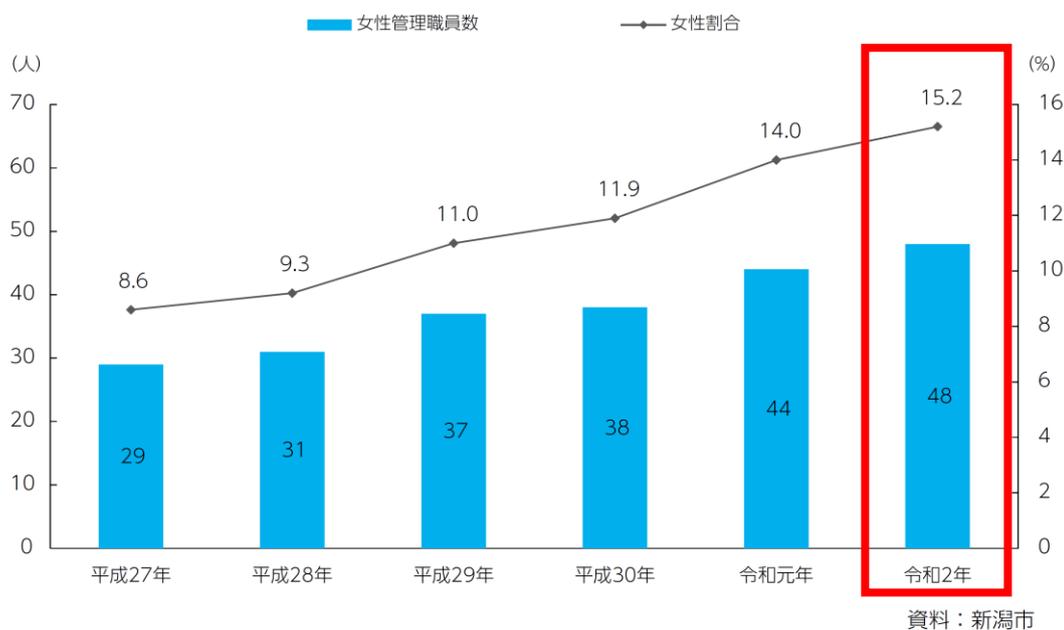
今井 しかし、マンパワーが足りなくなってきています。

土田 西蒲区では、じゃんけん大会をやっていた事例もあります。簡単なことではないのでしょうか。色々な世代が集まりやすいものが良い。

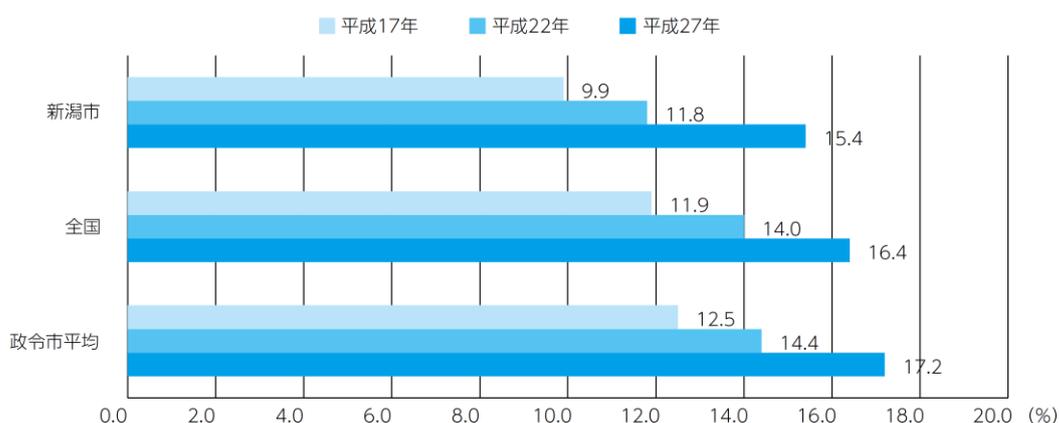
司会 自治会のマンパワーが足りないというのも、上の世代がどんどん引退していき、という風に考えると、若い力が必要ですね。

田村 新潟市の管理職の割合を調べてみたら、女性の登用率は上がっているようです。係長までは高いけど、課長以上がまだまだ。

市職員の管理職(課長以上)における女性の割合



管理的立場にある女性の割合



資料：総務省「国勢調査」

今井 市議会議員も少ない(新潟市の女性割合は18.8%)です。(出典:内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」令和5年4月1日)

指田 ジェンダーの順位が低いのも、議員の数が少ないことが原因の一つと考えられます。

今井 意思決定の場所に女性がいないと、なかなか意見も反映されません。

司会 女性が関わらないと性被害の視点が欠如してしまいますよね。

今井 区役所の1階のトイレにあるこどもの椅子が、以前、便座から離れたところにあって、何かあったときに用を足している最中だと助けにいけない状態だったんです。それを私の提案で直してもらったりしました。ちょっとした気づき大切です。男性の方にもこども用の椅子をつけるという動きもありますね。

土田 避難所でも、女性の意見が大切です。女性がいないと、女性の気づきが得られない。

田村 「女性は炊き出し」ではなく、やりたいことをやれるといいですよ。

司会 こどもが参加してくれると影響が出てくるのかも。

土田 男女だけでなく、年齢の壁も越えられるかもしれませんね。

今井 女性は特に、「お手伝いだったらいいんです」という人もいます。意思決定を担うところを、女性は避けがちな点もあります。役割という枠組みを見直して、「この仕事はこの人が得意だから中心になってやる」といった分担を心掛けることが大切なのかなと思います。

土田 今の若者は、動画とか自分で発信することをしているから、自己表現をする機会が多いです。そういう子たちは、人前でしゃべるのも緊張せずできるかもしれませんね。こどもたちが参加することで、田村さんみたいに、「おばあちゃんの知恵」のような、こういうやり方があるんだ、というような、世代間の交流があったりしたら、楽しくなるかもしれませんし。

指田 下の年代の人たちを上世代の人たちが知り、上世代の人たちを下世代の人たちが知っていけるような交流が生まれてくるといいですね。

田村 自治会のメンバーに高校生とか入れると良いのではないのでしょうか？

指田 それこそ zoom とか使ってもいいですね。

今井 会議の構成員について、実際のまちと構成比があっていると、良い会議になるという話も聞いたことがあります。

土田 新しい文化を作るのは、若者、ばか者、よそ者と言いますもんね。

今井 地域の中で何かやろうと思ったときに、若さを出すことは意外に大切だと思っています。若いうちは知らないことが多くても、自分の考えを発信し続けることが大切です。私が自治協議会委員のときも、回を重ねるごとに周囲の方々に段々と受け入れられるようになっていきました。小学生に授業したり、大学生に話を聞いたりする中で、新たな発見が色々ありました。若い人の意見を積極的に取り入れていきたいですね。